

モニター通信 No.4

皆さんから寄せられた「モニター通信 11 月分」を紹介します。

「消費生活の啓蒙・啓発について」

～消費生活については市報・ホームページ・消費生活展や啓発活動などで情報発信を行っています。より一層、啓蒙・啓発を行うには今後どのような取り組みを行っていけば良いですか？～

モニターから No. 1

私たちは四六時中、消費の連続だと思えます。日頃、何気なく無意識のうちに生活行動している時でも、様々な問題が含まれていることが数多くあると思えます。しかしながら一般的に思っているだけで、外に向けての意思表示は少ないと思えます。そこで学校区ごとの公民館で、順番に消費生活センターの相談窓口を開設したら良いと思えます。職員の皆様には更なるご負担をおかけしますが、より一層の奮起をお願いしたいと思えます。モニターも一部協力したいと思えます。待ちの体制から攻めの体制への変換が必要かと存じますが、いかがでしょうか。

また、市の新入職員に対し、研修として消費生活センターで市民の感覚や問題点を知る上で有効と思われませんが、試すこと自体無駄ではないと思えます。

モニターから No. 2

【消費生活展に参加して考えたこと】

何回か連続で参加していますが、毎回感じるのは来場者が少ないことです。人通りの少ない場所で来場者は、亀城プラザの講座を受講している子供たちや消費生活展の関係者か身内の方々ばかりな気がします。

駅前に市役所やアルカスがあるので、そちらを利用した方が来場者は増えると思えます。

モニターから No. 3

振り込め詐欺や悪質商法、また金銭の絡むネットでのトラブルは後を絶ちません。これらを少しでも減らすためには、消費者に十分な知識や情報を持ってもらい、正しい判断力を身に付けてもらうのが一番だと思えます。

土浦市の市報や消費生活展では消費生活に関係したトラブルや、その際消費生活センターに相談することが紹介されていますが、振り込め詐欺以外のトラブルについては興味や関心が低いように感じられます。以前、テレビで他県の警察が高齢者を対象に啓蒙活動として、振り込め詐欺防止の寸劇を行っている様子を見ました。寸劇ではなくても、興味や関心を持ってもらうためには、分かりやすくというだけでなく、おもしろおかしくという要素も必要だと思えます。そして消費者のトラブルを気軽に相談できる場所を市役所の入り口に設けたり、そこで様々な相談に応じていることをアピールすることも必要だと思っています。

モニターから No. 4

消費生活モニターになって数年経過しますが、非常に難しい課題を与えられました。啓蒙・啓

発活動は、自分自身の日常の勉強により生活に役立つことを、消費者の皆様にご案内することです。それにはもっともっと勉強することが不可欠です。先ず市・消費生活センターの年間計画に基づき、私たちが活動出来る分野、例えば消費生活月間キャンペーンの項目に該当する「街頭ビラの配布」を実施したいと思います。ビラの内容は新しい情報に基づくものがよく「土浦市・安全情報メール」を注視したいと思います。最近の情報を紹介しますと、ニセ電話詐欺の予兆電話警戒警報などが緊急性もありますが、最近における県南地方に発生した情報を広く周知するところに価値があります。ビラ配布時期は、四半期に1回をまず実施したいと思います。

私たちモニターは、今まで以上に盛んな活動を望んでいると思います。まずは身近ですぐできる行動から実施して、実力のある消費生活モニターに成長して、少しでも世の中の役に立つモニターに成長したいと思っています。

モニターから No. 5

悪質商法による被害報道が連日報じられる昨今、訪問販売・ネット販売・架空請求・・・と巧妙な手口。食品をはじめ、商品やサービスの安全に対する不安が社会に高まっている昨今、消費生活の安全、安心への関心度を高めていく今、トラブル防止の知識等を身につける努力も大切。仮に購買、契約、被害に遭っても、泣寝入りせず社会性への被害に？と受け止めて消費生活センター等への報告や相談につなげて、消費者の被害未然防止と拡大防止に役立つのではないのでしょうか。

他人事ではない自分事と賢い消費生活をエンジョイしたいものです。

モニターから No. 7

世の中の変化・進歩が速く、私たちの暮らしは便利になっていくが、その反面内容が複雑で理解が難しいというのが現状である。日常の生活の中で、知らなければ困ること・損をすること、相手から知りたいことを聞いて、出前講座をするのはどうだろうか。

- ① 具体的にどんな講座ができるか、内容を整理して提案
契約トラブル、カードや電子マネー、消費税の増税、4k・8kテレビ
ネットやスマホの活用、電気・ガスの自由化等
- ② 対象の絞り込み
地域の団体（学校のPTA、老人会、婦人会、等）
学校関係（小・中・高・大学）
職場（会社、工場、役所、等）
- ③ 対象に合わせた説明内容や資料の工夫

実際に専門家から、直接最新の情報を聞いたり質問したりすることによって、日頃よく分からなかったことが理解できるようになるのではないだろうか。

モニターから No. 8

数年前から市報に消費生活コーナーができたのは、とても良かったと思いました。市役所の中にも出張所があったら便利かなと思います。これは人員的にも難しいかもしれませんね。せめて目立つ場所に様々な被害等の実態の展示コーナー等、具体的に特に市内の実態等、身近に感じられて効果的ではないでしょうか。

この春までやっていた金融学習会ですが、水戸の会合で他のグループの中で学校へも出向いてお金の使い方等のお勉強会をやっているグループもあると聞きました。これからの小中高校生にも、子供の頃から様々なお金にまつわる怖さ・大切さを学んでもらうことも大切かと思いました。18歳から成人と認められるとなると、問題も発生してくるかと思います。(契約面等)

モニターから No. 9

現在の活動を見てみると、消費生活展が年1回になったり、消費生活セミナーが少なくなったり、またモニターの人数も15人に減り情報発信出来る場がどんどん縮小されています。そんな状況下での啓発は、かなりの工夫と努力が必要ではないかと思います。私たちモニターに対して消費生活に関する様々なトラブル等のセミナーを地域の活動に入れてほしいという要望もありましたが、手順や内容等、何も示されないまま人を集めてほしいという依頼も、モニターをあてにし過ぎている感も否めません。まずはスタッフ自ら意見を出し合い、マンネリ化した今までの活動をどう変えていくのかを進んで話し合うべきではと思います。

モニターさん自身もいろいろな意見を持っていると思いますので、そういう意見を聞く場を設け、参考にされてはとも思います。

モニターから No. 10

【消費生活展に参加して感じたこと】

犬・猫など動物の殺処分を無くすための活動をしている方がいました。暑い日でしたのに着ぐるみを着て、動物のためにこんなに一生懸命活動されていると思うと、驚きと感動を覚えました。その思いは、すべてにつながっていくと感じました。

モニターから No. 11

わたしをはじめ、モニターになっている方々は、消費生活センターに行くことがあり、そのセンターの方々の様々の活動を知っているし、その活動に触発されて日常生活にいろいろと役立っている。しかし、自身の周囲を見ると、センターの活動を知らない人が多いことに驚く。幸いにも、何かの被害にあったという話は聞こえてこないが、市民に積極的に賢い消費生活をしていただくために、モニターをしている人の周囲にセンターの活動を知らせるためのチラシをモニターの手元に置かせてはいただけないだろうか。予算を多く使わないようにA3裏表印刷で二つ折り程度のチラシでいい。何かの時に手渡し、あるいは回覧板に挟んで見てもらうようなことに利用したいと思う。

すぐに効果の現れることではないだろうが、消費生活センターの存在と活動を知ってもらい、日常生活の何かの機会に意識を喚起することに役立つと思う。何かがあった時に、市役所にそういったような部門があったはずだから相談してみよう。

モニターから No. 12

消費生活の啓蒙・啓発活動の効率的なものがあるかどうかはわからない。しかし時間と手間がかかることではあるが、防災教育と同じように小学生を対象としてマニュアルをつくり、学校に出前授業をするのが一つの方策ではないかと思います。防災教育については日本赤十字社が3・

1 1 地震の後に特に力を入れているようで、教材の開発に多大の時間と費用をかけています。ここで作成された教材を活用して青少年赤十字加盟校に出向いて、日本赤十字社茨城県支部は防災教育を実践しています。文科省の後援もあり市町村の教育委員会や県教育委員会が共催プログラムを組んでいます。この日本赤十字社の防災教育のノウハウを研究して、消費者庁や県の教育委員会の協力を得れば、小学生を媒体として消費生活の啓蒙・啓発活動につながるのではないかと思います。

モニターから No. 13

働いている人は皆、忙しく毎日を送っているだろう。特に主婦と仕事の両立は多忙です。一番消費生活に関係ある立場でもあるが、忙しいがゆえに市報・ホームページ、ましてやついででもなければ、わざわざ消費生活展などに足を運ぶのは難しいでしょう。言葉少なくても、目につきやすいよく利用する場所に啓発ポスター・チラシを掲示することが重要である。銀行のキャッシュコーナー付近、子供の送迎の待ち時間に見られる塾や習い事の入り口あたり、学童保育、保育所・・・わずかな時間でも目に止まるポスターがあれば、もっと知りたい時、必要な時に初めてHPや消費生活展に足を運んでもらえるのではないのでしょうか。

モニターから No. 14

市報やHP・消費生活展や活動を行っているので、十分な啓蒙・啓発は行っているのではないかと思います。この他にはどんなことが考えられるだろうか・・・と頭を悩ませてみました。それは身近な方の実体験やお話が、一番私にとっては浸透するように思います。

土浦市にお願いできるのなら、人と人とのコミュニティーが取れる場所の提供、お菓子でもつまみながらお話が聞ける、土浦市民なら無料で利用できるサービスセンターとか、何か特典もありつつコミュニケーションが取れる施設であつたらいいのかなと思います。

モニターから No. 15

【くらしのセミナーに参加して】

物が溢れている現代の生活ですが、ごみの排出量も多く、その処理費用はなんと年間20億円の税金がかかっています。今、一人1日あたり1,100gのごみを出しており、これは全国の他市町村よりも約1割も多く出ている、その中にはリサイクル出来る物が6割くらいは含まれているとのことです。「捨てればごみ、分ければ資源」で、ちょっと意識を変え、手間ひまをかけることで、あと100gの減量は可能になると思います。

「ごみの減量・分別の徹底で、ごみ処理施設を1年でも長く大切に使用したいので、皆さんに一人一人のPRをお願いしたい！」との清掃センターの職員の方の熱い熱い語り口に感動し、市民意識の向上に協力したいと思いました。

モニターから No. 16

【くらしのセミナーに参加して】

(株)ツムラの工場見学で、社員の方が外で並んで出迎えてくれた様子に真摯な印象を受けました。当初の見学者は医師や薬剤師の医療関係者が対象だったそうですが、数年前から一般の方も受け入れるようになったとのことでした。明るく清潔感あふれる館内で丁寧な説明を聞き、契約

栽培されている生薬の原材料になる木の皮・草の根・葉の中には、身近にある植物が多くあって意外でした。漢方薬の歴史の流れが詳しく説明展示されていて、じっくり見られる時間があつたらと思いました。

清掃センターは初めての見学で、高性能の公害防止機器でダイオキシンの心配もない事が分かり、安心しました。改めてゴミ問題の重大さと減量化の意義を認識しました。大変有意義なくらしのセミナーの一日でした。